

2018年7月9日

報道関係各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

W3C (ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム) どの言語でもウェブの進化をさらに促し、世界に広めるための新プログラム 「国際化イニシアチブ (Internationalization Initiative)」を開始

The World Wide Web Consortium (ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム、以下 W3C) は、2018年7月9日より、ウェブのさらなる国際化を進めるために、「国際化イニシアチブ (Internationalization Initiative)」プログラムを開始します。

W3C 国際化活動 (W3C Internationalization、以下 i18n) は、W3C が長年にわたって手がけてきた領域であり、限られた言語でしか使えない状況から、多言語が使えるように対応することで、あらゆる文化、地域、言語のユーザーに対して、十分に機能し、かつ、容易に適合するような、アプリケーションや仕様の設計・開発が行われています。

1998年初頭に開始した i18n 活動は、ワールド・ワイド・ウェブそのものを真に世界規模とすることを目指し、あらゆる活動を通じて、ウェブへの普遍的なアクセスを可能とするために行われて来ました。W3C は、ウェブの進化に伴い、さらにその活動を強化したいと考え、新たな取り組みとして本プログラムを開始する次第です。

■ i18n とは

i18n とは、Internationalization (i で始まり n で終わる間に 18 文字) を表しています。i18n 活動の使命は、様々な言語、スクリプト、地域、文化を鑑み、W3C として、手法、慣習、技術、デザインを提案ならびに採用の調整を行い、ワールド・ワイド・ウェブへの普遍的なアクセスを可能にすることです。W3C は、この使命のゴールを、W3C グループ間の連携、他組織との調整、指南書の作成、諸課題に関する技術作業そのものを含め、多様な方法で追求しています。人気の高い「i18n Checker」、文書で広く使用されている「Working with Time Zones, Character Model for the World Wide Web 1.0: Fundamentals or Requirements for Japanese Text Layout (日本語組版処理の要件)」は高く評価されています。

■ 「国際化イニシアチブ」プログラムで、i18n の核である活動を拡大

「国際化イニシアチブ」プログラムでは、i18n を継続するために、主に以下の3つの側面において活動します。 [Internationalization \(I18n\) Activity](#)
Making the World Wide Web world wide!

- 言語環境の改善： 世界中のユーザーが慣れ親しんだ現地の組版機能をウェブがサポートできるようになり、長年にわたる印刷の伝統に沿った形で、ユーザーがウェブとやりとりできるようになります。
- 開発者へのサポート： 仕様、システムレベルのツール (ブラウザ、印刷)、ユーザレベルでのツール (エディタ) の制作者に、国際的な仕様を理解し、実装するためのサポートを行います。新分野の技術とツールが国際化要件を満たすかどうかの調査方法を含めたサポートも、追加で提供することを予定しています。
- 制作者へのサポート： 自国語のウェブコンテンツを作成する人々や、多数の言語で大量のウェブサイトを構築または現地語化する企業に、仕様の指南と訴求活動を行います。

主な活動には、以下も含まれます：

- ギャップ分析と優先順位の整理；要件の文書化。
- 再調査；ガイドラインとチェックリスト；構造上の解決。
- 指南書；訴求活動；チェッカーツール。

■ 「国際化イニシアチブ」プログラムへのご支援

「国際化イニシアチブ」プログラムでは、i18n を継続するための専門家とその活動への資金を募っています。

ウェブの国際化における近年の驚異的な進歩

民族学者は現在 7,100 の言語が話されているとし、ウィキペディアは 100 の言語が世界人口の 85% を占めていると伝えています。オンラインで英語を使用しているのは、近年のウェブユーザーのうち、約 4 分の 1 のみです。それらの驚くべきデータは、ウェブが「ワールドワイド」の名前を体現するならば、世界中のユーザーがそれぞれの言語のコンテンツを利用する際のニーズを、ウェブがサポートしなければならないことを指しています。i18n を通じて、異なる言語、スクリプトおよび文化を持つウェブテクノロジーを使用することが可能になります。W3C の i18n 活動は、W3C 内のワーキンググループや他組織と連携して、ウェブの国際化を進めるために行われています。

W3C CEO の Jeffrey Jaffe は、「この『国際化イニシアチブ』プログラムへの、スポンサーシップによる資金提供や、専門家・ステークホルダーによるご支援は、高度な技術力を持つリーダー、業界、出版界、学者、政府、そして、全てのウェブコミュニティが、今後もウェブの未来を作り出すために不可欠な方法なのです。」と述べています。

ウェブコミュニティは、ここ数十年に渡り、ウェブの国際化において大きな進歩を遂げましたが、言語コミュニティにおけるウェブの浸透が深まり、使用するシナリオが拡大し、デジタル出版などの新たなアプリケーションが登場するにつれて、ウェブの仕様にして解決しなければならないことも増加しています。

世界中のコミュニティとつながる創設スポンサー

W3C の会員であるアリババ株式会社、Apple、モノタイプ株式会社、The Paciello Group、そして、慶應義塾大学 SFC 研究所アドバンスド・パブリッシング・ラボが、「国際化イニシアチブ」プログラムの創設スポンサーになります。スポンサーは、i18n 審査委員会の参加などの各種メリットを享受することができます。

上記のスポンサーシップに加え、W3C は本活動に取り組む人材の派遣も受け付けています。自身のコミュニティの代表として、国際的なウェブの構築に貢献することは大きな意味があります。ウェブ技術の開発者は、発展途上地域でも、先進国と同じようにウェブを使えるようにリソースを準備しておく必要があると考えています。

■ W3C (ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム) について

W3C の使命は、誰もがオープンにアクセシブルに相互運用できるウェブの技術とガイドラインを通し、ウェブの可能性を地球上のあらゆる場所で最大限に引き出すことです。オープンウェブプラットフォーム上で、HTML5 や CSS、そしてセキュリティ・プライバシーの仕様も含め、W3C の Patent Policy の元に、全てのウェブサイトに対して標準を策定しています。キャプションと字幕付きのオンラインビデオをよりアクセシブルにする W3C の技術は、2016 年のテクノロジー&エンジニアリングエミー賞を受賞しました。

400 を超える会員と各産業の数千もの技術者が、W3C のビジョンである「One Web」を創り上げています。W3C は、米国 MIT: Computer Science and Artificial Intelligence Laboratory (MIT CSAIL : マサチューセッツ工科大学計算機科学人工知能研究所)、フランス ERCIM: European Research Consortium for Informatics and Mathematics (ERCIM : 欧州情報処理数学研究コンソーシアム)、日本の慶應義塾大学、及び、中国の北京航空航天大学 (Beihang University) により共同運営されており、各国に W3C オフィスを設置しています。詳細については <http://www.w3.org/> をご覧ください。

【本件のお問合せ先】

慶應義塾大学 SFC 研究所 W3C 事務局

E-mail: keio-contact@w3.org TEL: 03-3516-2504 FAX: 03-3516-0617

【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

E-mail: kri-pr@sfc.keio.ac.jp TEL: 0466-49-3436 FAX: 0466-49-3594